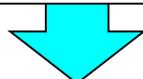


学校教育目標
心身ともに健康で知性と感性に富み、自分も人も大切にす豊かな人間性をもち、時代と社会の変化に主体的に対応してたくましく生き、社会に貢献できる児童を地域・保護者と連携して育てる。 考える子 思いやりのある子 元気な子

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> ● 中期経営目標 保幼との円滑な接続と小中9年間の学習の系統性を踏まえ、小学校における基礎的・基本的な学力の定着と知識・技能を活用する力を身に付ける。 ● 今年度の目標【学習方法の改革】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。

指導の重点(各教科)	指導の重点(総合的な学習の時間)
(ア) 基礎的・基本的な学力の定着・学習内容の習得と活用を図る。 (イ) 各教科等の特性に応じた言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定するとともに、児童一人ひとりの、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。学びの過程や自己評価を重視し、主体的・対話的で深い学びを実現する。 (ウ) 各教科等において、情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての学校図書館の機能を計画的・効果的に活用し、学校図書館指導員を活用しながら児童の主体的・意欲的な学習活動や「中野の100冊」を活用した読書活動の充実を図る。 (エ) 体づくり運動・縄跳び・持久走等の体力向上月間の実施や体育の授業改善を図るとともに、栄養士や養護教諭の専門性を生かした食育・健康安全指導・がん教育、感染症への正しい理解等の教育を推進し、保護者と連携して、児童が主体的に体力向上や健康を保持増進する意識・実践力を育む。 (オ) 各教科等で育む思考力を基盤としながら、情報活用能力について教科等横断的な視点で授業改善を行い、プログラミング体験や各教科等におけるアンプラグドプログラミング教育を推進し、各教科等における思考の論理性の向上と一体的に捉えてプログラミング的思考を育成する。 (カ) 教員の専門性を生かした一部教科担任制や交換授業、学年合同授業や地域人材を活用した指導の開発等を通して授業の充実を図る。 (キ) 英語専科教員を中心として年間指導計画を作成し、ALTやデジタル教科書を効果的に活用し、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(ア) 探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。 (イ) 協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動を実施する。 (ウ) 地域の特色や福祉、伝統文化等との連携を意識し、指導と評価の観点を明確にした年間指導計画に基づいた活動を推進する。 (エ) 「プログラミング的思考」を育むことを目的とした授業を計画的に実施するとともに児童の発達段階に即した指導を工夫・推進する。



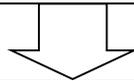
授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
問題解決型学習におけるノート指導を充実させることで話し合い活動を活性化するとともに復習や自主学習に役立たせ、理解の確実な定着を図る。 一人一台タブレットと学習アプリMonoxerの活用による授業改善・授業改革を一層推進する。教員による学習の指導と評価、評価に基づく指導と、AIによる理解の定着を図る。	図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を推進する。(情報収集と適切な活用能力を育成する。) 「情報センター」としての学校図書館の機能整備と計画的・効果的な活用を図り、学校図書館指導員によるレファレンスを充実させる。	形成的評価の充実により評価規準・評価計画に基づく指導と評価の一体化を推進し、知識・技能の確実な習得を図る。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため、算数科の少人数・習熟度別指導や一人一台端末を活用した学習状況の把握と指導、任期付短時間勤務教員を活用したチームティーチングや放課後学習教室、夏季学習教室を実施する。	特別支援教育の視点を生かした授業により全児童の確実な理解を推進し主体的に学ぶ態度を育成する。 巡回相談等の活用や家庭・関係機関との連携による補助教材や教具の活用など合理的配慮を整備し、全ての児童の能力や可能性を最大限伸長するよう努める。	家庭学習における学習アプリの活用を推進し、家庭と連携して児童の家庭学習習慣の確立を図り、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科における指導の重点
<p>言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定する。 情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての学校図書館の機能を計画的・効果的に利活用する。 アンプラグドプログラミング教育を推進し、思考の論理性の向上と一体的に捉えてプログラミング的思考を育成する。</p>

現状分析
<p>区学力調査の結果分析</p> <p>・5学年中4学年で達成率が7割を超えている。基礎的、基本的な学力は概ね定着できていることが分かる。 ▼言葉の特徴や使い方に関する事項…3・5年 ▼情報の扱い方に関する事項…5年 ▼我が国の言語文化に関する事項…2,4,5年 ▼書くこと…2,4,5,6年 ▼話すこと・聞くこと…5年 ▼書くこと…5年 ▼読むこと…5年</p>
教科指導上の課題
<p>2年生…説明文で事柄の順序を考えながら内容を捉えられるようにする。経験したことから書くことを見付けて文章を書けるようにする。 3年生…漢字を正しい筆順で正しく書けるようにする。経験したことから書くことを見付けて文章を書けるようにする。 4年生…ローマ字で表記されたものを正しく読めるようにする。 5年生…漢字を正しく書くこと、連用修飾語の使い方や指示語の役割の理解、意見の共通点に着目して考えをまとめること、相手に伝わるように事例を挙げながら話すことを指導する。 6年生…漢字を正しく読み書きできるようにする。</p>



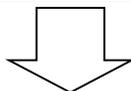
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none"> 「書くことを見付ける」活動の際、日常生活との関連を重視し、一人ひとりの興味・関心に応じた題材を設定できるような学習活動を設定する。 「読むこと」の学習で「考えの形成」の際には、児童が自分の体験と結び付けられるよう、話し合い活動を設定し、経験を十分想起できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習アプリ「Monoxer」を週2回以上朝学習で活用し、漢字や語彙などの基本的な事項の定着を図る。 学校図書館を毎週活用し、「中野の100冊」から、発達の段階にあった本を適宜紹介し、主体的な読書態度を育む。 長期休業期間には、ワークテストの結果を基に、習熟度別に東京ベーシックドリルに取り組ませる。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み以降の「読むこと」の単元では、児童に学習の見通しをもたせ、計画を立てて自己調整しながら探究的に取り組む学習を1単元以上設定する。 話し合い活動の際に、Google スライドを中心とした協働学習ツールを20単位時間以上活用し、考えの即時交流を通じた活発な対話を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習アプリ「Monoxer」による家庭学習に毎日取り組ませ、新出漢字を確実に習得させる。 児童が興味をもてるよう、ローマ字を使って教室・廊下掲示をし、日常的に触れさせることで、ローマ字を正しく読む力を育む。(4年生) 「書くこと」の指導において、前学年の既習事項を丁寧に指導するとともに、文書作成ソフトを使い、丁寧に評価及び指導ができるようにする。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> 各単元において、アンプラグドプログラミングの視点で「学習計画」を立てる活動を充実させ、一人ひとりが見通しをもって、主体的に学習に取り組めるようにする。 Google Classroom を活用した授業を後期に3回以上設定し、一人ひとりの学習状況に応じた支援、指導をできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「文や文章」の学習では、「Monoxer」及び東京ベーシックドリルを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 「聞くこと」「話し合うこと」活動の際に、「比較する」という視点を常に提示し、意見の共通点と差異点を基に自己の考えを広げられるようにする。 学習アプリ「Monoxer」を毎日の家庭学習及び朝学習(週3回)で取り組ませ、新出漢字の定着を図る。 資料を採す活動では、学校図書館を必ず活用して、情報収集・選択・活用能力を育む。

(2) 社会科

【小学校】

社会科における指導の重点
言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定する。 情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての学校図書館の機能を計画的・効果的に利活用する。 情報活用能力について教科等横断的な視点で授業改善を行い、アンプラグドプログラミング教育を推進し、思考の論理性の向上と一体的に捉えてプログラミング的思考を育成する。

現状分析
教科指導上の課題
・資料の読み取りの技能や知りたい情報を調べる技能を身に付けられるようにする。 ・調べたことをまとめたり、学習問題に対する答えを自分の言葉で表現したりする力を高められるようにする。 ・社会的事象への興味・関心を高め、主体的に課題や疑問を解決する学習に取り組めるようにする。



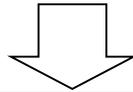
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	・調べる段階では、コラボノートを活用することで、個別で調べた内容を共有できるようにする。 ・まとめる段階では、新聞やポスター、パンフレットを作る活動を意図的に設定することで、様々な表現方法を経験できるようにする。 ・グループワークを行う際には、スライドやコラボノート等を活用することで、アナログ・デジタル双方の利点に児童が気付けるようにする。	・資料の読み取りについては、扱う資料をねらいに合ったものを選択するとともに、その資料のどの部分に着目したらよいかを明確にしながら読み取らせていくことで、様々な資料の読み取りを経験できるようにする。 ・調べたことを自分の言葉で表現できるよう、表現方法や話型を手本として提示する。 ・小単元の導入では、自分たちの生活に直結する社会的事象や具体物を扱うことで、学習内容と自分たちの生活とのつながりに気付き、学習内容に興味をもてるようにする。
5・6年生	・小単元の導入では、教科書の資料だけでなく社会的事象に関わるニュースや身近な具体物を用いることで、社会的事象に児童自身も関わっていることに気付けるようにする。 ・調べる段階では、スライドやコラボノート等を活用することで、個別で調べた内容を共有したり、グループワークをしたりできるようにする。 ・グループワークを行う際には、デジタル・アナログ双方の利点を踏まえた上で手段を選択させ、他のグループと比較できるようにすることで、より適切な表現方法について考えられるようにする。	・資料の読み取りについては、意図を明確にした資料を扱うことで、児童が何に着目すればよいか気付けるようにする。 ・まとめる段階では、調べた社会的事象についてまとめるだけでなく、児童自身との関わりについて考えさせることを積み重ねることで、社会科の学習を自分事として考えられるようにする。 ・事前に家庭学習をして集めた情報を共有する場を設定することで、学習意欲の高い児童がより関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、他の児童も情報に触れ、興味をもてるようにする。

(3) 算数科

【小学校】

算数科における指導の重点
言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定する。 少人数・習熟度別指導や任期付短時間勤務教員を活用したチームティーチングや放課後学習教室、夏季学習教室を実施し、基礎的・基本的な学力の定着、学習内容の習得と活用を図る。 アンプラグドプログラミング教育を推進し、思考の論理性の向上と一体的に捉えたプログラミング的思考を育成する。

現状分析
区学力調査の結果分析
高学年では、達成率が7割を下回っている。4年生までの学習の定着を図る必要があることが分かる。 △数と計算…2、3、4、5年 ▼6年 △図形2、3、4、5、6年 △変化と測定2、3、4、5、6年 △データの活用…3、4、5、6年 ▼2年といったように、領域別正答率を見ると、ほとんどの学年が目標値を上回っている。
教科指導上の課題
2年生…情報を整理することができるよう、観点を定め、必要な情報をまとめることができるようにする。 3年生…波及的繰り下がりがある計算や、ものさしの長さを読み取ることができるようにする。 4年生…数の相対的な大きさを理解し、身近なものの長さを推察して適切な単位を使えるようにする。 5年生…対角線の性質を理解し、与えられた辺をもとに四角形を作図できるようにする。 6年生…小数、分数の計算や、単位量あたりの大きさを求めることができるようにする。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">一人ひとりの学習段階に応じた教材(プリント、Monoxer など)や教具(ブロック、おはじき)を用意し、個々の関心に沿って取り組めるようにする。ペア学習やグループ学習で互いのノートを見合ったり、教師用タブレットで友達の考えを映して交流したりする場面に慣れ親しみ、協働的な学びの素地を作れるように指導する。	<ul style="list-style-type: none">ブロック操作を通して数の合成分解の概念を身に付けさせるとともに、「Monoxer」を活用して計算問題の演習を繰り返す。図形の単元では、具体物を操作したり、デジタル教科書の学習資料を見せたりしながら理解を深める。情報を整理することができるよう、整理する観点を教室掲示したり、係活動等の日常の場面でも情報を整理する活動を取り入れたりする。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">単元終わりに問題作りの場面を設定し、児童が見通しをもち、計画を立てて自己調整しながら意欲的に取り組む単元設定を繰り返す。話し合い活動の際に、スカイメニューを中心とした協働学習ツールを20単位時間以上活用し、考えの即時交流を通じた活発な対話を促進する。	<ul style="list-style-type: none">デジタル教科書を活用し、ものさしの目盛りの読み方を数直線と関連付けて理解させたり、波及的繰り下がりのあるひき算の原理を個別で指導したりする。ものの長さや重さを測ったり、時間を読む活動を取り入れたりする活動を日常的にできるような学習計画を立て、家庭にも促す。正答率の低い児童は、具体物を操作したり、図と

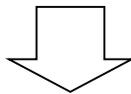
		<p>対応させて視覚的に理解させたりして、実感を伴った理解ができるようにする。</p>
5・6年生	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の習熟や復習の単元では、個々の習熟段階に応じて計画を立て、自己調整しながら意欲的に取り組めるようにする。 ・全体共有では、コラボノートやスライド、スカイメニューなどを活用し、全員の考えがタブレット上に反映されたもので交流したり共有の方法を選択したりできるように、支援・指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「Monoxer」を活用し計算力を高めることで、基礎・基本の定着を図る。 ・放課後学習教室や夏季学習教室で、ワークテストの結果を基に、習熟度別に東京ベーシックドリルに取り組ませ、既習事項の定着を図る。 ・授業の中で、学力調査のような文章問題の形式を取り上げ、慣れさせる。

(4) 理科

【小学校】

理科における指導の重点
言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定する。 問題解決型学習におけるノート指導を充実させることで、話し合い活動を活性化させる。 情報活用能力について教科横断的な視点で授業改善を行い、プログラミング体験やアンプラグドプログラミング教育を推進し、思考の論理性の向上と一体的に捉えてプログラミング的思考を育成する。

現状分析
教科指導上の課題
・自然事象や得られた結果から、観察や実験の記録や、生活経験を根拠にして自分の考えを表現する力を身に付けられるようにする。 ・段階的な指導を行い、問題解決型学習の思考の流れを身に付けられるようにする。



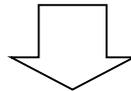
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
3・4年生	・問題の見出しや結果の交流の場面では、コラボノートを活用して交流することにより、個々の考えや得られた情報を共有しやすくする。 ・デジタルコンテンツを記録媒体として活用することにより、自分の考えの根拠として活用できる場を設定する。 ・記録と思考をデジタルとアナログで使い分けることにより、双方の利点に気付けるようにする。	・問題解決型学習による論理的思考を促すために、授業のゴールを見据えて、自然事象との出会いの場を設定する。 ・結論の導出では、習得させたい学習内容を明確にして、自分なりの表現方法でまとめることができるようにする。 ・学習内容と実生活場面での現象とつなげることで、学習内容の定着を図る。
5・6年生	・個人やグループだけでなく、ICT(コラボノート、スカイメニュー、スライド等)を効果的に活用して、より多くの観察・実験結果から考えを形成させるようにする。 ・問題意識を高くもたせ、プロセスに沿った活動を子供たちが決められるように授業をデザインする。	・問題解決の各プロセスにおける考え方について重点的に指導していく。 ・学習アプリ「Monoxer」を活用して、前年度までの学習内容の定着を図る。 ・考察の場面では、子どもたちに自由に自分の考えを出させながら、効果的な発問や対話を通して、考えを深めていけるようにする。

(5) 生活科

【小学校】

生活科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">・言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定するとともに、児童一人ひとりの、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。・学びの過程や自己評価を重視し、主体的・対話的で深い学びを実現する。・情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての学校図書館の機能を計画的・効果的に活用する。

現状分析
教科指導上の課題
体験活動を通して気付きをもつことができるよう、学習活動において「見通す、試す、工夫する、見付ける、比べる、例える」を意識させるようにする。



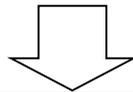
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・活動や体験を通して、一人ひとりの興味・関心に 応じたテーマを選択できるような学習活動を1単 元以上設定する。・タブレットで撮影した写真や付箋など様々な方法 で、感じたことや気付いたことを伝え合う機会や場 を設定し、新たな発見や気付きが生まれる協働的 な学びの素地を作れるように指導する。	<ul style="list-style-type: none">・課題に対して創造的に考えられるように、活動を 「見通す、試す、工夫する」を意識させる学習活動 を行う。・課題解決を図る方法の視野を広げられるように、 学校図書館などを積極的に活用する。

(6) 音楽科

【小学校】

音楽科における指導の重点
児童自らが考えをもち、表現する機会や場を設定するとともに、児童一人ひとりの、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。 プログラミング体験やアンプラグドプログラミング教育を推進し、音楽科におけるプログラミング的思考を育成する。 教員の専門性を生かした交換授業、学年合同授業、地域人材を活用した指導の開発等を通して授業の充実を図る。

現状分析
教科指導上の課題
1年生…お互いの演奏を聴き合い、気付きや発見をもてるようにする。 2年生…曲想に合う歌い方を考えられるよう、歌詞の意味を考えて歌う指導をする。 3年生…響きのある歌声を出せる発声の方法を身に付けられるようにする。 4年生…音楽づくりの中で発想力を育められるようにする。 5年生…リコーダーの基礎練習を徹底し、基本の技能を身に付けられるようにする。 6年生…鑑賞の学習で、聴く視点を明確にし、聴くことの楽しさや面白さを味わうことができるようにする。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・互いの演奏や考えから気付いたことや思ったことを、言葉やワークシート、ジェスチャーで伝えるなど、様々な伝え方ができるように設定する。(1年生)・夏休み以降の音楽づくりの題材では、「バーチャルピアノ」などのタブレットを活用した単元を1単元以上設定する。(2年生)	<ul style="list-style-type: none">・鑑賞の分野では、曲の特徴を感じ取って表現するために、良いところ見付けの機会を増やしたり、教師がモデルとなって見本を示したりする。(1年生)・歌唱の題材や常時活動を通して、様々な曲想の歌に取り組みながらいろいろな歌い方を知る。歌い方を試す、いろんな雰囲気のを歌う。(2年生)
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・響きのある声を出すための体の使い方を、動画を活用して、視覚的に分かりやすく理解できるように工夫をする。(3年生)・「バーチャルピアノ」を使用した音楽づくりでは、ペア学習やグループ学習やiPadを活用した学習を取り入れながら、友達と関わりながら音楽を作る楽しさを味わえる授業展開にする。(4年生)	<ul style="list-style-type: none">・歌唱の題材では、発声がしやすいような体操や練習を取り入れて、響きのある歌声を出しやすくする。リコーダーの学習では、常時活動で指使いを確認できる学習を設定する。(3年生)・音楽づくりでは、リズム作りや旋律作りを定期的に取り入れることで、自分の思いや意図を表現することに慣れさせる。(4年生)
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・夏休み以降の器楽の題材(特にリコーダー)では、Google Classroom を利用し、手本を配布するなど学習の見通しをもたせる。また、ペアやグループ学習を取り入れながら個々の習熟に合わせて取り組めるような学習を設定する。(5年生)・「カトカトーン」を利用した音楽づくりに取り組み、	<ul style="list-style-type: none">・毎授業時間の中で短時間でもリコーダーを演奏する時間設定をし、基礎練習に取り組み、タンギングや指使いの定着を図る(5年生)

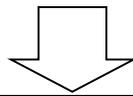
	作った音楽を共有し、視覚的に分かりやすく楽曲の構造を分析して理解につなげる。(6年生)	・音楽づくりの分野では、リコーダーや木琴などを使いながら取り組み、ペアやグループ学習の中で作った音楽を共有する。(6年生)
--	---	---

(7) 図画工作科

【小学校】

図画工作科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">・児童が造形的な視点について自分の感覚等を通して理解し、工夫してつくり表したりできるようにする。・児童が材料、用具の適切な扱いに慣れるようにする。・児童がつくりだす喜びを味わうとともに、自分や友達がつくり表したりした作品や考えたことを大切にできるようにする。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">・見通しをもって作品を仕上げることができるようにする。・はさみ、のり、絵の具などの正しい扱い方ができるようにする。



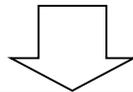
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・活動の過程や作品をICT端末のカメラ機能を使って撮影し、画像や動画を大型モニターに映し出して表現する。・できあがった作品をコラボノートに保存し互いにコメントを書き合う鑑賞活動を通して、自他の表現や考えを広げられるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・導入では、学習の流れをパワーポイントにまとめた物を大型モニターで見せ、学習の見通しをもたせ個々の意欲を高める。事前に何を制作するか知らせておき、前もって構想を練らせる。・材料や用具の扱いについては、写真や動画等を用いて丁寧に確かめることで基礎的基本的な扱いを定着させる。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・活動の過程や作品をICT端末のカメラ機能を使って撮影し、画像や動画を大型モニターに映し出して表現する。・学習の流れや作品の作り方についてまとめたプレゼンテーションソフトを使って説明する。・Google Classroom のドライブの中に作品の写真を入れ、作品を共有し、鑑賞できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・導入では、学習の流れをパワーポイントにまとめた物を大型モニターで見せ、学習の見通しをもたせ個々の意欲を高める。事前に何を制作するか知らせておき、前もって構想を練らせる。・児童の学習意欲を高め、学習の見通しをもって取り組めるようにする。・Google ドライブ内で全員の作品を共有し、互いの良い所を見付けることができるようにする。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・活動の過程や作品をICT端末のカメラ機能を使って撮影し、画像や動画を大型モニターに映し出して表現する。・学習の流れや作品の作り方についてまとめたプレゼンテーションを使って説明する。・カメラ機能を使って、作品の構図を決めたり、立体的な物の描き方を掴んだりする。	<ul style="list-style-type: none">・導入では、学習の流れをパワーポイントにまとめた物を大型モニターで見せ、学習の見通しをもたせ個々の意欲を高める。事前に何を制作するか知らせておき、前もって構想を練らせる。・児童の学習意欲を高め、学習の見通しをもって取り組めるようにする。・カメラ機能を使うことで、取ったり消したりして修正や補正をしながら構図や描き方を掴むことができるようにする。

(8) 家庭科

【小学校】

家庭科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">・生活の自立に向けて実践的・体験的な学習の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定する。・情報の収集・選択・活用能力を育成し、家族や地域の人々と協力してより良い生活を創り上げる力を育む。・アンプラグドプログラミング教育を推進し、思考の論理性の向上と一体的に捉えてプログラミング的思考を育成する。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">・児童自らが家庭生活の中で課題を見出し、家族の一員として毎日の生活をよりよくするための意識を高めることができるようにする。・裁縫や調理等の技能の習得が確実にできるようにする。・発展的な学習につながるよう、家庭での実習につなげる学習計画を立てるようにする。



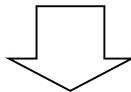
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・各単元において、アンプラグドプログラミング教育の視点で「学習計画」を立てる活動を充実させ、一人ひとりが見通しをもって、主体的に学習に取り組めるようにする。・Google Classroom、コラボノートを活用した授業を後期に3回以上設定し、一人ひとりの学習状況に応じた支援、指導ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・児童が家庭生活を見直し、家族の一員として実践できるよう個人の「学習計画」を立てる。・5年生や家族に向け、6年生が裁縫動画を撮影して見せるなどの取組をする。・調理実習の事後学習として、家庭での実習を促すよう課題を与える。

(9) 体育科

【小学校】

体育科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">・児童が主体的に体力向上や健康を保持増進する意識・実践力を育む。・栄養士や養護教諭の専門性を生かした食育・健康安全指導・がん教育・感染症の正しい理解等の教育を推進する。

現状分析
教科指導上の課題
<ul style="list-style-type: none">・主体的に取り組もうとする意識の差と、運動能力の違いから生まれる技能の差があるため、児童全員が主体的に学習に取り組めるような学習計画を立てるようにする。



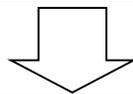
授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1・2年生	<ul style="list-style-type: none">・一人ひとりが継続して意欲的に取り組むことができるように、遊びを通し、自然に多様な動きをつくる運動となる場の設定をする。・一人ひとりの力に合った「めあて」をもたせ、自分なりの達成感を味わわせる。	<ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用し、手本の動きを必要に応じて何度も見られるようにする。・短なわを年間を通して継続的に行い、体力を付けさせる。・ルール of 工夫を話し合うことで、全ての児童が活躍できる学習活動を行う。
3・4年生	<ul style="list-style-type: none">・運動が苦手な児童でも楽しめるような活動や場の工夫を行い、簡単な運動からスモールステップで進めていく。・ICT機器を活用し、運動の様子を児童自身が把握できるようにする。自ら課題を設定し、その振り返りを行う。・ゲームの中で、習得すべき技能(課題)をもとに本時のめあてを児童(チーム)に選ばせ、それを基に授業をすすめていく。	<ul style="list-style-type: none">・技能ポイントを提示し、少しずつ技能の向上を図ることで、達成感をもたせ、日頃の運動への意欲につなげる。・児童が意欲的に取り組むことができるルールを児童自らが工夫し、すすんで運動をしようとする態度を育む。
5・6年生	<ul style="list-style-type: none">・運動が苦手な児童でも楽しめるような活動や場の工夫を行い、簡単な運動からスモールステップで進めていく。・ICT機器を活用し、運動の様子を児童自身が把握できるようにする。自ら課題を設定し、その振り返りを行う。・学び合いの活動を取り入れ、ICT機器を活用しながら、お互いを見合う中で、技能ポイントや視点を伝え、意識させるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・児童同士を交流させ、伝え合い、励まし合う時間を設ける。また、交流させるときには、話し合うポイントを明確にする。

(10) 外国語活動・外国語科

【小学校】

外国語活動・外国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none">・ 言語活動の充実を図り、児童が自らの考えをもち、筋道を立てて表現する機会や場を設定する。・ 完璧な文の会話ではなくても、他言語の人とコミュニケーションを取ろうとする態度を養うため、また、自分の考えや気持ちが伝わったときの喜びを味わわせるために、友達やALTとの会話やプレゼンテーションの機会を設ける。

現状分析
教科指導上の課題
3年・・・英語で話されたことの明確な内容や意味を聞き取ることができるようにする。 4年・・・外国語の挨拶や簡単な質問に、簡単な単語で答えることができるようにする。 5年・・・アルファベットや英単語を正確に読むことができるようにする。 6年・・・音声で慣れ親しんだものを文字と結び付けられるようにする。



授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
外国語活動	<ul style="list-style-type: none">・それぞれが習得した内容を伝え合ったり、皆の前で発表したりする機会を UNIT (テーマ) ごとに設けて、英語でのコミュニケーションに慣れ親しませる。(月に1~2回程度)	<ul style="list-style-type: none">・歌や読み物の音声をオーディオ機器を使い、いつでも聴けるようにして、慣れ親しませる。聞こえたまま発音することを繰り返す自学の仕方を身に付けさせる。・歌や絵本の読み聞かせなどからも、外国語の音声や独特の表現に慣れ親しませるようにする。・日常にあふれている外来語を用いて、英語の言い方と比較しながら発音する習慣を付けさせるとともに、フォニックスに取り組む。
外国語科	<ul style="list-style-type: none">・学習アプリの英語学習に取り組ませる。・英語を特別なものととらえず、音声や文字を身近に感じることができるよう触れる機会を多くする。・コラボノートやスライドなどを使い、グループで調べたことを英語でプレゼンすることに慣れさせる。・他教科で行っていることを英語に置き換えてできるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ALTの発音や音声を繰り返し真似て発音し、自分の発音に自信をもたせるようにする。きちんと伝わったかどうかフィードバックする。・読むことと書くことをセットにして、単語やチャンク(意味のかたまり)を覚えられるようにする。・ティーチャーズトークやスキットなどを、毎時間聞かせたり見せたりすることで、聞き慣れた単語や表現を基に全体の流れを捉える習慣を付ける。・音声と文字の違いを識別し、その読み方を発音できるように繰り返し練習する時間を確保する。・言いたいことを表現するために、適切な言葉を辞書で調べたり、言い方を教師に聞いたりする時間を十分に設ける。

(11) 特別の教科 道徳

【小学校】

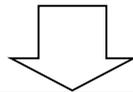
道徳科における指導の重点

児童の発達段階や個人差に配慮した適切な指導を実施し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育む言語活動の充実を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。人との関わりを通して、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度、実践する力の形成を目指す。「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」を本校の重点項目として取り組む。

現状分析

教科指導上の課題

- ・その時の学級の実態に応じてできていないところを改善するような授業計画をせず、年間の見通しをもって授業計画を立てられるようにする。
- ・学級の実態に合うような教材を、教科書や副読本などから選択できるようにする。
- ・話し合い活動において、児童に考える時間を十分に与えられるようにする。
- ・1単位時間における学習状況を見取れるような評価をする。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・各学年の年間指導計画に基づいて、1年間の児童の成長の様子、さらには、将来的な展望を見据えて道徳性を養っていくよう指導していく。
- ・教科書の教材にとらわれず、文科省や東京都の教材、書籍、デジタル教材等、学級の実態に合った教材選択をする。
- ・“考え、議論する=意見交流する”ためには、自分の考えをもたせなくてはならない。そのためのワークシートや ICT 機器活用の工夫をする。
- ・1単位時間で全員を見取るのではなく、数名に絞って児童の変容を見取る。座席表シートの活用や道徳ノートへの教師からのメッセージ等を踏まえて評価材を蓄積していく。